

柳宗悦著「民藝とは何か」講談社学術新書、講談社 2006年9月10日刊を読む

民藝の美の特質

1. (1) 第一は実用性ということです。美が用途と結合しているということです。いわば生活に即して生れてくることです。このことこそ美を健全なものになすのです。美を生活の外に追いやるべきではなく、その内面に見出さねばならないのです。
 - (2) 日本では幸い茶道がこの真理を吾々に教えました。茶道は「生活の美学」と称してもよく、用いる器物の中に美を示しました。そうして茶人達が選んだ美しいそれ等の器はことごとくが民藝品であったことに注意せねばなりません。
2. (1) 第二に実用品であることは常に多量に作られることと、それが廉価であることとを求めます。
 - (2) 多く作ることや安く作ることがかえって美を生む場合がたくさんあることを知っていいのです。少くとも少量よりできないことや、高価なものよりできないことは、社会的に経済的に満足すべきことではないのです。
 - (3) 吾々の理念としては美しいものをたくさん安く作ることです。進んではたくさん安く作ることです。民藝はこの要求に答えるものです。
3. (1) 第三の民藝美の特長は、平常性ということです。^{さき}嚮にも述べた通り、近世は驚くべき雑多な美を産みました。そうして何か変わったものを求める結果、ついには極端な異常なものに美を見出そうとしました。そうしてしばしば病的なものに陥りました。しかし人類はもう一度美を常態に戻さねばならないのです。私が民藝に心を惹かれる一つの大きな理由は、そこに豊富に「常態の美」を見出すからです。
 - (2) 昔支那に南泉という坊さんがいました。ある時弟子が彼に「道とは何か」と尋ねました時、南泉は「平常心是道なり」と答えたと言います。私は日常の器物にこの教えを聞く想いがします。私の経験と理論との到達した結論は平常美が結局美の最後の標準だということです。尋常ということの方がもっと深い根底を有つことは、^{つと}夙に禅宗等の説く所でありました。民藝は 'Normal art' と呼ばれていいのです。もしも 'Normal' という言葉に親しさがなければ、これを 'Natural' という字に替えてもいいでありましょう。最も自然な状態にある美は結局最も美しいのです。
4. (1) 第四にこれにつれて民藝の美の著しい特色は健康性ということに外なりません。美に様々な

姿があろうとも、健康美は結局最も多く社会の幸福を約束するものだと云わねばなりません。

(2)幸いにも様々な工芸品の中で、一番働き手である民藝品は、必要上一番健康に作られているのです。人間の場合と同じく健全な肉体や精神の所有者でなくば、十分な働きをなすことはできないのです。

(3)健康であることは自然の意志そのものに適うのであると云わねばなりません。

5.(1)第五の特色は単純性ということです。民藝品たることは質素な簡単なものであることを要求してきます。単純美は民藝美の特権であるとさえ云えるのです。

(2)質素なものは美の世界においても讃えられていいのです。

(3)私達は単純性と美との間に深い結縁があるという摂理を感謝せねばならないのです。この福音を教えるものは民藝なのです。

6.(1)第六は協力性の美をここに見出すということです。

(2)誰も知る通り、東洋でも西洋でも昔はどんな優れた作にも名は記してありません。宗教時代のことでしたから、吾が名を誇る気持ちはなかったのです。

(3)民藝の世界に来ると再び無銘の領域に来るのです。作者は一々自己の名を記しません。このことは作者の不浄な野心や欲望を拭い去って、それを無心な清浄なものにしてくれるのです。

(4)しかもそれは大勢の人の協力の仕事なのです。これは工芸の性質自身が要求することなのです。焼物の例を取れば轆轤ろくろを引く者、削る者、描く者、焼く者、各々持ち場があって、それ等の人達が協力して仕事が完成されるのです。民藝品は個人の所産ではなく、多くの人の協力的所産だということに大きな意義があるのです。

(5)将来の美学は、個人で美を産むということより、大勢で協力して美を産むということの方が、もっと大きな理念だということをお教えねばならないと思います。個人の名誉よりも全体の名誉をもっと重く見るべきです。それ故人々は無銘品の価値をもっと見直さねばなりません。

7.(1)かくして私は民藝品の最後のまた最も重要な特色について語る場合に來ました。それは国民性ということです。民藝は直ちにその国民の生活を反映するのですから、ここに国民性が最も鮮かに示されてくるのです。

(2)ですから民藝に乏しい国家があったら、それだけ国民的特色が弱い国なのを暗示します。それ故強大な国家を形造ろうとする国民は、民藝の発達を企図せねばなりません。これなくして

国民的表現はないからです。

(3) そうして一国の民藝はさらに地方的工藝に依存してきます。ですから地方的工藝の存在は重大な意義を有ってくるのです。地方こそは特殊な材料の所有者であり、また独特な伝統の保持者なのです。国民的伝統の上にこそ、強固な国民的美が発露されるのです。

8 . (1) 工藝は国民的でなければなりません。

(2) しかも国民的なものは互に反目するものではないのです。興味深いことには国民的な作品ほど普遍的要素を含むものはないのです。

(3) 最初から国際性をねらったものは、結局どこの国のものにもならないでしょう。これに反し国民的なものは、どこの国のものとも並在し調和する国際性を有っているのです。

(4) かかる意味で将来の美は国家的でなければなりません。そうして国家的なるものを互に尊敬し合うことに将来の世界の平和があると思います。

(5) 民藝の美学は私にかかる信念を呼び起してくれるのです。

P127 ~ 132

[コメント]

民芸とは何かを考えるとときに最も参考になるのが本書かも知れない。7 点にまとめられた民芸の美の特色は 1 項目、1 項目が参考になる。このような美の特色を備えた民芸は日本文化そのもののような気がしてならない。

- 2009 年 8 月 18 日林明夫記 -